

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこピア浄法寺		
所在地	〒028-6911 岩手県二戸市浄法寺町上前田34		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和6年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

支援に対して職員、利用者様との関係と捉えず、ご家族と三位一体となり日頃の経過、変化について情報共有をして利用者様の支援をしていく事を心がけている。日常では広大な敷地を有効活用して散歩、庭での行事と外出の機会を設けている。春には施設周辺に桜の木があり、景観を楽しんで頂いている。雨天時は元小学校という事もあり、体育館へ散歩をして気分転換及びADLの低下予防に繋げている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二戸市浄法寺町の近郊にあり、稲庭岳と天台寺に近い自然豊かな集落の高台にある事業所である。全職員が話しあって作成した今年度の方針「今、この一瞬を大切に、家族と関わりをもち互いに学ぶ」を実践するため、職員が働きやすい職場環境づくりに努め、意見や要望を言い易い雰囲気大切にしている。利用者や事業所の様子を広報誌「にこにこ」を毎月家族に送付する等家族と疎遠にならないように努めている。災害対策については、事業所が高台にあるため浸水想定地域にはなっていない。火災や地震等を想定した避難訓練の際には、放水訓練等地元消防団との協力体制を築いている。食事の献立は利用者からの要望を反映するようしており、食事を楽しむことができるよう支援に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業計画を作成して、目標を掲げて共通意識をもって支援に繋げている。また、進捗状況を確認して業務にあたっている。	全職員が話し合い年度末に翌年度の事業方針を作成している。今年度の方針は「今、この一瞬を大切に、家族と関わりをもち互いに学ぶ」である。方針に基づいた六つの取り組み項目の進捗状況を毎月確認し、上半期と下半期に管理者が総括し評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事、外出行事を企画して地域との繋がりをもっている。	地域の自治会には加入していないが、町の一大行事である7月の七夕祭りの実行委員を管理者が努めている。利用者と職員が一緒になって作った笹の飾りつけを出展している。事業所周辺の道路のごみ拾いを自主的に行うとともに、近くのスーパーに職員と利用者が一緒に買い物に出かける等、地域住民の理解を得るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事を通じて関りの中で住民に認知症高齢者の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて事業内容の報告、提案を受け建設的にサービスの向上に繋げている。	隔月に開催する運営推進会議では、活動状況や活動計画を報告している。委員となっている入居者や家族の代表、民生児童委員、老人クラブ、市職員、消防団等から出される様々な質問や提案について丁寧に回答するとともに、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所へ出向き事業内容の報告、実情の情報提供を受け自施設と照らし合わせて運営に役立てている。	二戸市役所浄法寺総合支所の地域支援課の職員が運営推進会議の委員を務め事業所の実情を理解しているほか、二戸市健康福祉部福祉課に要介護認定の申請を行うなど、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束勉強会を通じて意識の徹底、知識の教養に繋げている。	平成18年の事業所開始時に策定した「身体拘束0宣言」により身体拘束をしない介護の実践に努めている。管理者と職員による身体拘束・虐待委員会を毎月開催しているほか、計画的に研修会を開催している。スピーチロックは、その都度管理者が注意しており、職員会議でも話題として取り上げている。夜間のみ防犯のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止勉強会を通じて意識の徹底、知識の教養に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護勉強会、現利用者様の権利擁護活用を照らし合わせて対応に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面を通じて説明をして理解をして頂いている。不明な箇所については細かく説明を補足している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望をもとに検討して柔軟に対応している。外部へは対応例を伝えて対応の幅を広げるサービスをアピールしている。	家族が来所した時や電話による要望には、随時対応するように努めている。運営推進会議には利用者と家族の代表を委員とし、意見や要望を運営に反映できる機会を設けている。入居者については、普段の生活の中の会話や仕草から意向等を把握するよう努めており、意思表示が困難な入居者は、生活歴や仕草から気持ちを推し量ってケアにつなげている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、終礼の他、職員会議の際、検討事項を述べる時間を設けている。検討事項に対しては可能な限り実現できるよう努めている。	年度末の事業所方針作成の段階で意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員会議時に施設の不具合や備品の不足等の意見が出されることがあり、できる範囲で改善するように努めている。日常会話の中でも管理者に話しやすい雰囲気を作り、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用契約書に沿った業務内容を各職員が行っている。定期的に面談を実施して目標に対して進捗状況を確認しながら業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の企画、進行と各職員が計画を立て実施している。法人外の研修の参加はしていないが、内部研修をリモートを通じて勉学の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の情報交換、職員による他事業所との情報交換と交流の機会がある。得た情報を自施設に持ちこみサービスの質の向上に繋げている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、利用者様、ご家族様より生活での不安、要望等を伺い情報をもとに施設生活を安心して暮らせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時不安点、要望を伺い説明をして納得をしていただき入居に繋げている。入居以降も関係の継続を図り、電話連絡、書面での情報提供もを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人様とご家族様の要望、考えを伺う時間を設けている。要望に対してケアプラン内容に盛り込み支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援が一方的ではなく利用者様からの要望も聞き、実現できるよう支援をしている。食事の楽しみも考えて利用者様の好みを伺いながら献立作成をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、施設生活での利用者様の心情を説明して疎遠にならぬよう協力を依頼している。工夫として季節ごとに衣類を交換していただき利用者様と顔を合わせる機会をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で連絡をとり、利用者様とご家族が直接やり取りできるようにしているケースもある。ご家族と疎遠にならぬよう配慮している。	利用者や事業所の様子を記載した広報誌「にこにこ」を毎月家族に送付し、疎遠にならないように努めている。5月以降は家族、友人等との面会を再会し、7月以降は面会頻度が多くなっている。また、近所のスーパーに職員と一緒に買い物に出かけたり、3か月に1回の訪問理容サービスを利用して、新たな馴染みの関係ができてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール、居室にソファを置き、利用者様同士で交流できるようにしている。仲の良い利用者把握して居室を配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、関係が終了するのではなく要望、希望がある場合問い合わせをしていただくよう説明をしている。退所後、利用者様の写真の要望があり提供したケースもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話、得た情報について職員間で情報共有をしている。情報をもとに行事の企画、散歩等実現できるようにしている。	日常会話や表情から入居者の希望や意向の把握に努めている。また、意思表示が困難な入居者は、生活歴や表情から意向の把握に努め、職員間で共有している。事業所周辺の散歩や敬老会でのうな井の提供、おにぎりづくり、玄関付近での草花鑑賞等、小さなことでも希望することの把握に努め、実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より入所前に生活歴、趣向等聞き取り、情報をもとに施設生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	最低月1回、利用者様の現状について話し合いの場をもっている。支援に対して迅速に対応が必要な場合は朝礼、終礼時話しあい方向性をだして対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となり毎月ケースカンファレンスを行っている。現状に合わせた支援法を模索して介護計画をたてている。	介護支援専門員が介護計画の原案を作成し6か月に1回見直しを行っている。利用者に変化があった時には、随時見直している。原案を基に職員会議時で話し合っ介護計画を作成し、家族に説明し承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項について介護記録へ記載している。気づきについて職員間で話しあい、変更点を連絡帳に記載して統一したケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況、ご家族の背景を考慮して対応困難なケースが発生した際、柔軟に対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望に応じて買い物の同行、外食等訴えに合わせて地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、かかりつけ医と受診、体調不良発生時に連携をとり対応している。対応後、内容についてご家族様に伝えている。	受診は、入居者や家族の希望を尊重している。協力医療機関受診者6人は職員が同行し、他の3人は入居前の町外の医療機関に家族が付き添って受診している。その際は事業所から情報提供を行い、受診結果を家族から確認している。耳鼻科および精神科は職員が同行している。歯科医師が週1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の健康について看護師の指示を仰ぎ健康管理にあっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、病院と直接話し合いの場をもち情報交換をしている。現状に合わせた対応をしている。対応後、施設内で話し合いの場を設けて退院後のシュミレーションをたて支障のない生活を送れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化の指針について説明をしており同意を得ている。	設立当初から「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」やマニュアルを作成し、契約時に本人や家族に説明している。職員の資質向上を目的に3月に研修を予定している。事業所としても看取りに対応したいと考えているが、現在のところ医療機関の協力を得ることが難しい状況にある。	入居時の重度化や終末期の対応についての説明に加え、さらに状態が変化した時に事業所でできる事を十分説明するとともに、職員に対する研修を継続し、一方で医療機関の協力を得ることができるよう取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習と通じて急変時、事故発生時の対応について知識の教養をしている。		

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを通じて有事の際、対応できる体制となっている。避難訓練では地元消防団との協力体制のもと訓練を行っている。	年2回の避難訓練を行っており、日中を想定した訓練を7月に実施した。2回目は夜間を想定し2月に実施予定である。7月には、入居者の避難訓練と同時に地元消防団員35人が放水訓練を行った。事業所は、高台にありハザードマップでも浸水予定地域には指定されていない。食料3日分を備蓄しているほか、発電機、ヘルメット等を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇勉強会を通じて接遇意識をもって利用者様と接している。	接遇勉強会を職員会議後に開催し、職員の資質向上に努めている。利用者と呼ぶ際、苗字か名前か意向を確認している。排泄時の誘導や失敗時にほかの入居者にわからないように対応している。入浴時の異性介助については、入居者の意向を尊重している。保険証等紙ベースのファイルは鍵のかかるロッカーに保存している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物の同行、散歩、好みの食事など会話の中での要望を汲み取り実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを決めておらず利用者様の要望に合わせて生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活衣類の選択、可能な限りご自分で身支度、整容としていただき自己決定を優先に生活を送っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事を通じて食事をつくる楽しみの機会を設けている。他に可能な方はテーブル拭き、配膳、下膳と役割をもっていただき食事の流れをつくっている。	行事食を含め献立を作る時には、入居者の希望を取り入れている。入居者からは、うな井やひつまみ、そばかけ、芋の子汁等のリクエストが多い。また、職員と一緒に作るおにぎりや焼きそば、バイキング、あんこの入ったおやつ等も楽しみにしている。テーブルを拭いたり配膳や下膳等入居者ができる事を行い、お互いに協力し楽しい時間となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量の把握、季節に合わせて摂取量増と調整をしている。食事量、形態と必要に応じてかかりつけ医に相談をしてアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限りご自分で口腔内の洗浄をいただいている。不足している部分は職員の協力を得て清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに本人様の排泄状況の把握に努めている。長時間排泄を確認されていない方については声かけをして排尿の失敗軽減に繋がるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、2時間トイレに行かない場合や食後に声かけ誘導を行っている。便秘の入居者には、献立の中にごぼうや冷たい牛乳を加えたり、運動を進める等の支援に努めており、必要な時は、かかりつけ医を受診している。現在、排泄が自立し布パンツを利用している入居者1人、そのほかは布パンツ1人、リハビリパンツ7人となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維のはいった献立作成、乳製品の活用と工夫を凝らしている。日常では体操の機会を設けて運動の機会をつくり便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康に留意したうえで入浴時間に制限を設けず入浴していただいている。湯温の好みを把握したうえで、入浴順を決めて入浴していただいている。	入浴日は火曜日、金曜日の週2回とし、午前中に入浴している。午後は、休みたいので午前中に入りたいと希望している入居者が多いが、希望があれば午後入浴も可能としている。熱めを好む人から先に入浴しぬるめを好む人は後から入っている。2人で一緒に入って歌を楽しんでいる人もいる。入浴時には職員との対話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間を設けず、一人ひとりの入床時間に合わせて対応している。入床前、仲の良い利用者同士でソファで談話をしている姿も見受けられる。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報、薬の説明書をもとに個々の服薬管理をしている。服薬の変更がある際は連絡帳に記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り利用者様に役割をもって過ごして頂き少しでも張りのある生活を送って頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常での会話で外出の訴えがある時は庭の散歩にでかけている。他に行事を企画して外出の機会をつくっている。	天気の良い日には、入居者の希望により事業所の広い敷地周辺を職員と一緒に散歩したり、玄関先の鉢植えの花を眺めて楽しんでいる。5月にはドライブで近郊の天台の湯に行き、7月には町中心部で開催された七夕祭りに出かけて楽しんだ。11月下旬には、車で紅葉狩りを予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、利用者様の金銭管理は行っていないが、残金確認、支払いと利用者様と一緒に行動している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常での変化について電話報告、依頼等でご家族へ電話連絡をしている。その際、希望に合わせて利用者様とかわりご家族様と電話のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物、行事での思い出の写真と季節感、生活感を感じていただくよう配慮している。	ホールや食堂は広い窓から光が入り開放的な空間となっている。エアコンやFFストーブ、空気洗浄機が設置されて快適な生活環境となっている。ソファが3台設置され自由に座ることができ、職員や入居者同士の会話を楽しんでいる。ホールや食堂、廊下には季節に合わせた壁飾りや利用者の作品が貼られ、居心地の良い空間となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを設置をして利用者様同士で交流できるようにしている。また、居室にもソファを設置しており仲の良い利用者同士で会話をしている場面もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に馴染みの物を持ちこんでも良いと説明をしており茶碗、箸、時計など使い慣れた物を持ち込まれている。また、写真、アルバムを居室に置き眺めている姿も見受けられる。	エアコン、ソファ、筆筒、引出し、ベッドは備え付けとなっている。テレビや茶わん、時計、家族写真等使い慣れた物を持ち込み、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームスペースには段差がなく且つ手すりを設置しておりADLが低下している方も自力で行動できるようになっている。		